



奈良文化財研究所創立 50 周年記念事業

『飛鳥・藤原京展』

50周年事業の一環として『飛鳥・藤原京展』を開催しています。飛鳥・藤原地域の調査と研究の成果を通観し、激動の7世紀をダイナミックに描き出した展覧会です。国宝・重要文化財を含む約140件の文物を展示しています。

本展は全国4カ所を巡回しますが、その道のりも半ばを過ぎました。秋は宮城県多賀城市の東北歴史博物館(10月11日～12月1日)、冬は三重県四日市市の四日市市立博物館(12月21日～翌年3月9日)へと会場を移します。

大阪歴史博物館では4万人を超え、東京都美術館では約10万人の観客動員数を達成しました。

大阪で来客アンケートを実施したところ興味深いデータが得られました。回答者の住まいは大阪府が50%を占め、兵庫県、奈良県、京都府と続きます。展覧会を知ったのは新聞26%、人に聞いて24%、ポスター22%で、新聞や広告とともにクチコミも大きな効果があるとわかります。インターネットはわずか4%でした。満足度はとてもよい30%、かなりよい45%、合計75%に達し、ほとんどの来場者に好評をいただきました。年齢層は60歳以上が26%と最も多く、10歳代8%、20歳代7%、30歳代と40歳代は6%でした。明日の日本を担う世代は、古代の日本に関心が少ないのかも知れません。

多くの意見も寄せられました。展示品が少ない、多すぎるといふ相反する意見や、解説をもっと詳しく、もっと平易にといふ声があります。一方で、よくまとまっている、わかりやすい、という意見も多

数ありました。復元模型やVTRも不評と好評と両方の意見があります。万人が満足できる展示はむずかしいと痛感しました。全体としては好意的な評価が多く、まずまず成功といえるでしょう。本展をみて興味をもち、実際に現地を訪れた方が飛鳥藤原宮跡発掘調査部の展示室にもお見えになっています。

また本展と関連して、大阪・東京会場に出展した金銅製四環壺(明日香村古宮遺跡出土、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)の調査を宮内庁と奈文研が共同で実施しました。このように展覧会とともに新しい研究もおこなわれています。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 石橋茂登)